

燃料を使わない発電機を作るには

発行日 2025 年 9 月 4 日

グラビティエンジニアリング(株)

代表取締役 都田 隆 (Takashi TSUDA)

エネルギー保存の法則が誤っていると主張したいなら、燃料を必要としない永久機関の発電機を作れるようにすればわかりやすい。そうすれば地球温暖化問題も速やかに解決されることになるだろう。

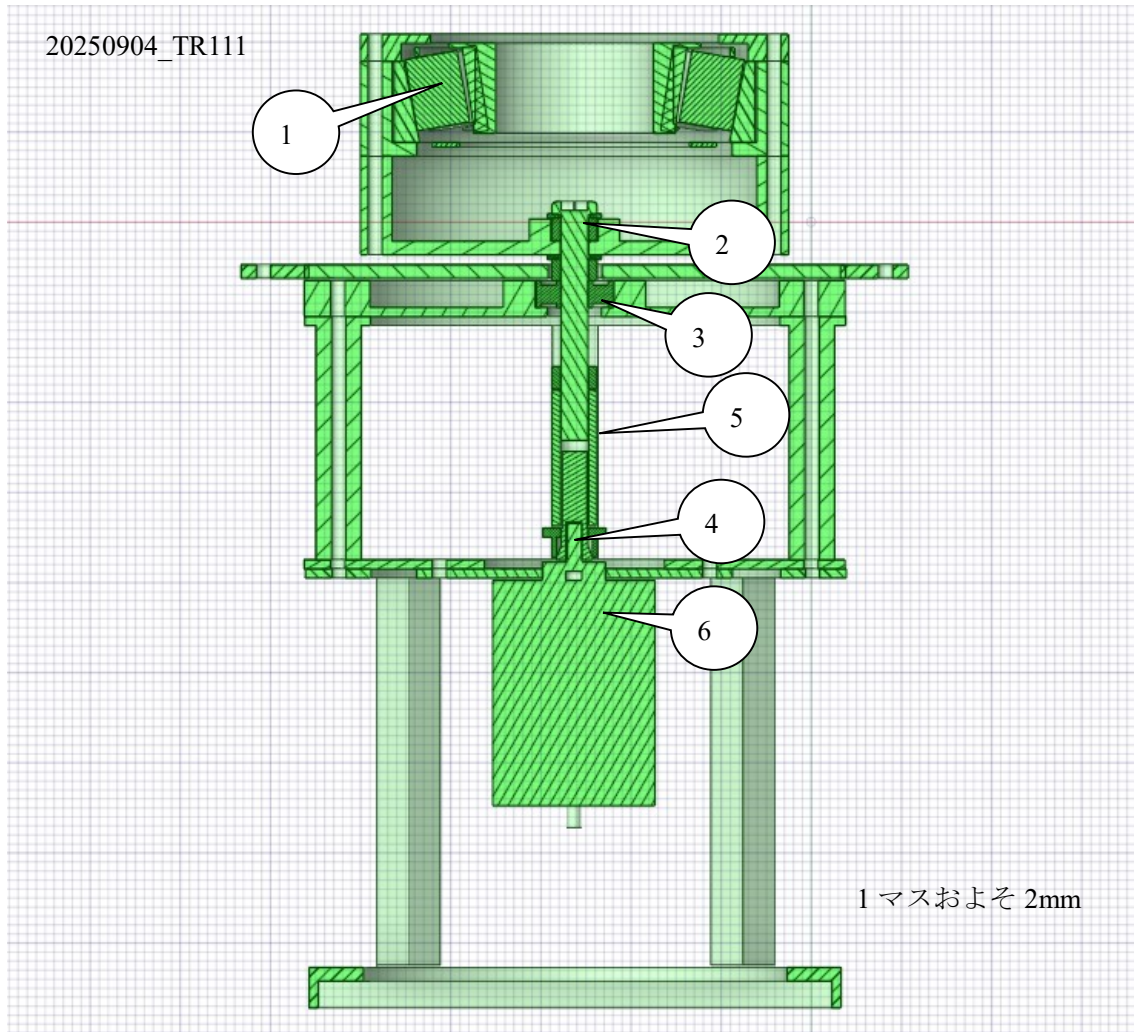
そこで再び竜巻エンジンに戻って、2023 年 8 月 8 日公開の 2 層積層型を 2010 年頃にやっていた直径 316mm の外径に合わせてやや大型化して実験してみることにした。

実験してみると少しはエネルギー増幅するが回転数の増加は振動的であり、穴の大きさの相関性や密閉性など難しい問題もあり、特に 2023 年 8 月より良くなったとも言えず、期待したほどのものは作れなかった。自分的には長い歴史があり、思い出もあつたが出来ないのだから仕方ない。(方法はきっとあるが、他にもっと良さそうな方法があるなら、そっちに行ってしまう。)

それで結局、上方推力でも竜巻エンジンは円錐コロに適わなかったように円錐コロを使ってエネルギー増幅させることにした。

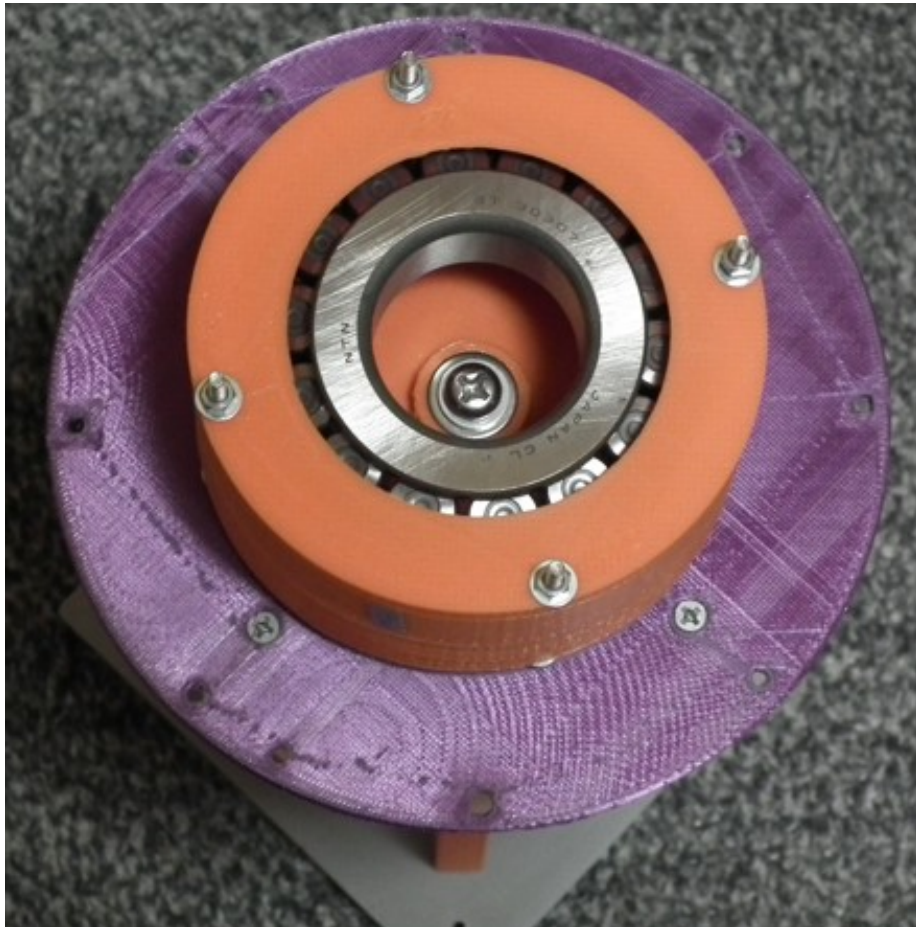
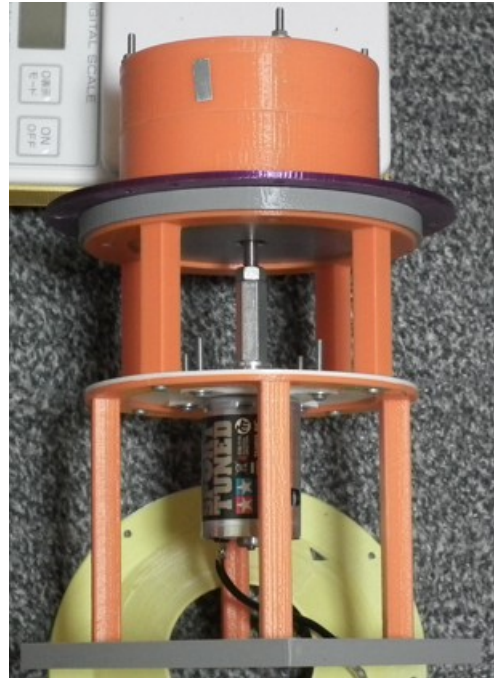
最近使っていた NTN_30306 の外周リングの直径は 72mm だったが、以前 2024 年 4 月頃使っていたやや大型の外周リングが 80mm の NTN_30307 の円錐コロ軸受けが手元にあつたので、これを単独で 1 層で使ってエネルギー増幅させることにした。(少し、大きくすることでエネルギー増幅も強力になることを期待した。)

■構造



- ①円錐コロ軸受け (NTN_30307) の円盤相当 (外径 80mm、内径 35mm) が内部に入っている
- ②太さ 6mm、長さ 50mm+3mm のステンレスの非磁性体のボルト
- ③外径 17mm、内径 6mm、厚さ 6mm のベアリング。鉄系の強磁性体
- ④モーター直結用のコレット式の金具。アルミ製 (非磁性体)
- ⑤高さ 30mm の高ナット。(強磁性体、素材不明)
- ⑥540 クラス、TAMIYA SPORT TUNED モーター (やや高速回転可能なモーター)

かなりシンプルな構造で、他者による再現実験の再現性はほとんど 100%だろう。(竜巻エンジンのような密閉性のような難しい問題もなく、ベアリングに強く押し付ける必要はない。)



■やや大き目の円錐コロ軸受け(30307)1層1ローターでのエネルギー増幅実験



計測値（撮影した動画[/TR111/DSCF5393. mp4]から数値を取得）				
No.	電圧 [V] ①	回転数[rpm] ②	（動画の継続時間）	重量計[g] ③
1	0.00	0	0:00	0
2	1.89	564.3	0:08	0.0
3	2.16	2064.3	0:17	0.0
4	2.37	3072.8	0:24	0.0
5	2.58	4042.3	0:36	0.0
6	1.85	4782.1	1:04	0.0
7	2.75	4982.5	1:41	-0.9
8	2.68	4815.9	1:45	0.0
9	2.71	4951.4	2:03	-0.9

No.1 は、実験開始

No.2 は、スピードコントローラーのアクセルを固定し運転開始。エネルギー増幅がなければ電圧も回転数も上がらないはず

No.3 は、かなり速く回転数と電圧が上がっているのはエネルギー増幅しているから

No.4 は、7 秒でほぼ 1000[rpm]、0.2[V] も上がるのは強いエネルギー増幅がある

No.5 は、12 秒でほぼ 1000[rpm]、0.2[V] も上がるのは強いエネルギー増幅がある（5 秒ほど増幅速度は落ちている）

No.6 は、電圧と回転数がガクンと落ちるのは、おそらく、浮上しようとして上蓋に当たったからと思われる。その後、電圧と回転数が増加に転ずるのはエネルギー増幅しているからだろう

No.7 は、今回の実験で最高の回転数に到達した。重量計は-0.9 と浮上しようとしているようであり、浮上するとコロが外周リングから離れることになるため、エネルギー増幅も止まることになる

No.8 は、小さな浮上で増幅が止まり回転数が落ちたが、再びコロと外周リングが接触するようになる

No.9 は、コロと外周リングが接触すると再びエネルギー増幅し回転数と電圧が上がるが、再び浮上してコロが離れることでエネルギー増幅は止まる

コロが浮上して外周リングから離れるとエネルギー増幅は止まる。コロが浮上して離れないようにするには中央にボルトを設置して重量バランスを調整したり、板バネを設置するなどすれば防ぐことができる。

今回の実験は円錐コロ軸受けを少し大きくする(30307)ことで、顕著なエネルギー増幅が観測できた。これはもう入力より出力が大きい発電機になっている。円錐コロ軸受けを更に大きくすればより強力なエネルギー増幅が観測できると予想できる。

■おわりに

今までのやり方を続けたいと思う人も多いだろうが問題があって続けられないから変えようとしている。変えなければゆでガエルのように滅んでいくのはほとんど明らかだ。

原発は二酸化炭素を出さないからエコと言う人もいるが、膨大な熱エネルギーを廃熱で放出し地球を直接的に温暖化させている。

AI 教育用のサーバの電力需要の増大で、AI は人類を滅ぼすのかも知れない。

国連などの地球温暖化対策は絶望的になっているが、そもそも今までのやり方に問題があるから危機的になっているのに、今までのやり方の延長線上に解決策があると考えるのは無理がある。

今までは変えようにも良い解決策がなかった。重力制御（円錐コロ軸受け利用）の発電機は水力発電並みにエコで安全で、設備投資費用は安い。円錐コロ軸受けにはかなり大型の既製品があり、大型にすれば高出力化が可能で、大規模発電事業者にとっても燃料を買わずに済み、色々と環境破壊していると責められなくなる。騒音や多重化、効率などの点で各家庭に発電機を設置するのは合理性に欠く、よって、大規模発電事業者にとっても良いことばかりだ。

船舶や航空機、自動車などの燃費も大幅に改善することになるだろう。

どんなことでも最初は非常識だった。ニュートンも最初は異端だった。30 年後にできるかわからない核融合発電に莫大な投資をするなら、確実にできると実験で証明された重力制御エンジンに投資するのは賢い選択だ。

現在は持続不可能な今までのやり方と決別し、無尽蔵でクリーンなエネルギーを利用して豊かな地球環境に変え、遙か遠い宇宙へも進出できるようにする人類史にとって重要な最初の時期だろう。いつまでも今までのやり方にしがみつ়くのではなく、早い時期に移行を始めるとその後は有利になるだろう。

天動説が正しいと言っていた人が急にやっぱり地動説が正しいとは言いづらい。彼らのお墨付きは期待すべきでない。

潮目は変わったとして、今まで原発を作っていたところが重力制御の発電機を作り、ロケットを作っていたところが重力制御の推進エンジンを作る。輸出も出来るだろうし、落ちぶれている日本経済も発展する。そんなことを大規模にやれば短期間で状況を改善できる可能性もあるだろう。外国からも日本は期待されているだろう。

以上